

平成24年度 第1回山梨県考古博物館協議会議事録

1 日 時 平成24年8月3日（金）午後1時30分～

2 場 所 考古博物館（風土記の丘研修センター）

3 出席者（敬称略）

（委員） 堀内邦満、曾根敦子、三井久美子、小川はるみ、椎名慎太郎、谷口一夫、
齊藤洋子、堀田一朗、廣瀬はるみ、篠原春子、八巻良一 11名
（事務局） 神津館長、福島次長、保坂学芸課長、学芸課員4名、総務課員2名
（教育庁） 学術文化財課員3名

4 会議次第

- (1) 開会
- (2) 会長あいさつ
- (3) 議事
- (4) その他
- (5) 閉会

5 会議に付した事案の件名

- (1) 平成24年度考古博物館経過事業について
- (2) 平成24年度考古博物館予定事業について
- (3) その他（指定管理者制度への対応について）

6 議事の概要

○ 平成24年度経過事業に関する質疑等

（委員）

総利用者数について、他の博物館などに聞くと3.11の影響で入館者数が落ち込んでいる館が多いようだが、ここは逆に増えている。何か努力をしたのか。

（事務局）

詳しい理由は分析していないが、土日に高速道路が無料になった時期もあり、なるべく東北から離れたところへという傾向はあるかもしれない。

当館については、一時期入館者数が減ったところが、最近は徐々に戻しているという時期でもある。そういったところもあるかもしれない。

（委員）

他の館は入館者数が減っているところが多いと聞いているなかでここは入館者数が増えているということで、ここは皆さんの努力の賜物だと思う。

（委員）

来館者の満足度調査ということは行っているか。

(事務局)

実施している。昨年度も特別展期間中にアンケートを実施したが、満足度は上がっている状況で推移している。

(委員)

イベントなどでもアンケートを実施しているか。

(事務局)

イベント時に限ってということではないが、アンケートを常備しておいて来館者に任意で書いてもらっている。昨年の特別展期間中は、入館者に手渡しでお願いして書いてもらったが、多くの方に回答してもらうことができた。そのようなことで、なるべく回収率を上げていきたいと思っている。

アンケート結果をみると、比較的満足して頂いているという回答が多いが、特に当館は本物の展示を中心に行っているのが満足して頂いている要因ではないか。会館30年ということで施的に不備な部分をご指摘頂くこともあるが、それでも満足して頂けているのは、やはり展示を評価して頂けているものと理解している。

(委員)

イベントが終わった後5分くらい時間をとって、イベントごとのアンケートを取ってみると、いい発想の意見を頂くことができる。そうすると同じようなイベントでも、次にやった時に少しでも改善や工夫ができるので、考えてみてほしい。

(委員)

30年間の来館者数の見てみると、安定しながら堅実に来館者を積み重ねている。極端に落ち込んだりすることなく、一定の数字を保ちながら特別展などの際に上乘せがあるということで、皆さんの努力で安定して推移していると思う。

(事務局)

館の運営に当たって利用者ニーズの把握には重点を置いており、平成23年度からは、今までアンケートが1種類しかなかったが、常設展用と特別展用に分けたり、回答者数もこれまでは400人程度だったが1,000人を超えるなど力を入れている。

先ほど満足度が高いということだったが具体的な数字で言うと、展示内容では87%が「おもしろい」と、展示方法についても88%が「満足」と肯定的な回答を頂いている。一方で、施設の老朽化という課題もあるので、そういった点も含めて館の運営に反映させていきたいと考えている。

(委員)

古代衣装の貸し出しはどのくらいの点数があるのか。こういうものは、学校での教育や公民館活動などでも活用可能だと思うが。

(事務局)

弥生時代の巻頭衣や古墳時代の衣装など4種類の衣装がセットになって、4セット用意してある。これを学校などからの要請に応じて貸し出ししているところ。なるべくたくさん利用して頂けるように、チラシなどで広報していきたい。

(委員)

個人的な活用ということでは、美術館や県博はよく利用している。先日はロシアの子供達との交流会のお土産用に、県博でグッズを購入した。昨日は美術館に行ってきたが、学芸員の方が子供達が美術館をこういう風に活用したという様子を交えながら、実際の活用の仕方を説明してもらって非常におもしろかった。美術館のグッズも、県外の方に山梨県をPRするための絵はがきなどが置いてある。考古博物館は、今までそういう利用の仕方をしたことがなかったので、そういう形で利用できる部分があればこれからは積極的に利用していきたい。

学校での活用については、縄文時代や弥生時代の学習は比較的4月頃に行うことが多いので、それに間に合うような利用の仕方ということを考えると非常に難しい。年度をまたいでしまうので難しい面はあるが、前年度のうちに情報提供することがいいのだと思う。ただ、先生が異動になってしまったりすると、利用したいと思ってもチャンスを逃してしまうことがある。

(委員)

子供達が行き先を設定する校外学習などでの利用は。

(委員)

そういえば、6年生がこちらで火起こし体験をしに来たあとで、学校に帰って校庭で火起こし体験をしたことがあった。そういった体験学習は、子供達にとって新たな発見や発想が生まれる。

(委員)

笛吹高校の学校説明に行ったら、被服のコースがあるとのことだった。古代の衣装は非常に素晴らしいものだったので、そういうところで活用してもらったりすると、感受性豊かな子供達にとっていい経験になるのではないかと思う。

学校現場は忙しくなっているような気がする。授業参観があったり、いろいろな資料作りや会議があったりと、なかなかゆっくりと説明してあげられないし、自分自身が外へ出て勉強する時間が取れないという実情があり、とても寂しく思っている。昔のように、春や秋の遠足などでこういうところへ来て頂いて、山梨にはこういうものがあるということを見て頂くと、子供たちにいいのではないかと思っている。

大人が連れて行くというよりも、子供達同士で来て体験して、おもしろかったねという体験を多くさせてあげることが大切だと思う。

(委員)

小中は社会の授業があるが、高校は専門的に分科してくる。高校も忙しくなっていて、夏休みも課題がぎっしり入っていたり、部活動もあったりと、まとまった時間を取って見学するというのが難しいのが現状。

また、小中の間に考古博物館を経験しているということで、特別展やイベントなどで関心がある生徒は利用することもあるが、やはりネックになっているのは交通手段ではないか。

先日、山梨高校、甲府一高、笛吹高校などが、キャリア教育ということで県立博物館を訪問した。1, 2年生は、夏休み中に企業訪問をしてレポートを作成することもやっている。そういう利用の可能性もあるのではないか。

(委員)

協力員やボランティアガイドをやっている。この博物館をどうやって使ったらいいかということだが、5, 6月には小学生の遠足などで来館する方が多い。また、無料になる土曜日に子

ども達同士で訪れたり、親御さんが一生懸命で、今子どもが歴史の授業で習っているなのでこの博物館に連れてきたという方もいる。

山梨県のお子さん達は、こういう施設に来ると走り回りたくなる子が多い。今の若いお母さん達は、こういう文化的施設より、県外の親子で遊べるような施設に連れて行くことが多いのかもしれない。

親子で身体を使って楽しめるイベントなどがあれば、もう少し来館してくれるかなとも思う。イベントの時には親御さんがネットで調べて連れてくることが多い。子どもが「行きたい」と言った時に、親御さんがどれだけ関心を持ってくれるか、親の意識改革も非常に必要になってくるのではないか。

(委員)

考古博物館は、実際に体験する行事をたくさんやっている博物館だと実感する。孫を連れてチャレンジ博物館などに参加させてもらうが、親子で一緒に一つのものを作る、一緒に楽しむということが非常に大事だと感じる。身近に、こんないい環境にある考古博物館で、専門の先生方がものづくりを指導してくれるという機会を利用しない手はないないと思し、そういう意識を何とか広げていきたいと思う。

「わたしたちの研究室」でいい研究成果を見ていると、小さい頃から博物館に親しんで、学芸員の先生にいろいろ聞いたり、もの作りをしたという子ども達の作品が多い。今後も、子ども達に体験させるということをもっともっと広めてもらいたいと思う。

もう1つ、平和通りの相生歩道橋の道路案内板を見ると、右折すると「県立博物館」と書いてある。どうして「考古博物館」と書いてないのかといつも思う。ぜひとも「考古博物館」という表示をしてもらったら、県外から来る人もちょっと足を伸ばしてみたいと思うのではないか。

(委員)

甲府駅前に「美術館」「文学館」等の案内はあるが、「考古博物館」はないということで、以前からいろいろ議論があった。当時は甲府市ではないからということもあったが、今は完全に甲府市になっているので、何らかの形で働きかけをしたらいいと思う。

(委員)

30年前に東京から山梨に移ってきて大学の教員になって、専門ではないが考古学研究会を作って、学生と一緒に発掘しに行った。学生達が何をするのか分からずにやってきて、考古学にはまっていく。これは何がきっかけになるかということ、1つは「驚く」ということ。もう1つは「考える」というプロセス。

いろいろなイベントをたくさんやっているが、そういうことが原点だと思う。驚きがあって、そこから何かを考えるきっかけになるという、そのあたりはイベントの企画に活かして頂けたらと思う。

○ 平成24年度予定事業に関する質疑等

(委員)

1月に「考古博物館でお宝発見!!」があるが、7月の1回目の際には早い時点で参加者が締切られてしまった。人数制限も必要だとは思いますが、できれば来たいという方には皆さんに参加して頂けるようにできないか。または、回数を増やすということは考えられないか。

(事務局)

1回目の際には土偶を作るイベントと一緒に開催したので、粘土の数の関係もあって人数を限って行った。また、収蔵庫内に大勢は入れないということで、午前と午後に分けて開催した。冬にはなるべく大勢の方に参加して頂けるようにしたいと思う。

(委員)

今後も、30周年記念特別展の「インカ帝国展」や企画展、学習会・講座やイベントなど、事業の本数も非常に多く、いろいろな切り口の方が訪れてくれるということに繋がっているという表れになっていると思う。これからも頑張ってやってほしい。

○ 指定管理者制度への対応に関する質疑等

(委員)

資料の2ページを見ると、全国の都道府県立の歴史系博物館は62館あって、そのうち指定管理者制度を導入しているのは19館。その中で、直営から指定管理者に変更したというパターンは、岡山県立博物館の1つしかないという状況。

さらに、資料の4ページを見ると、考古博物館は、行政機関である埋蔵文化財センターが併設されているという特殊なケースでもあり、このどちらが欠けても大変なことになってしまう。

山梨県全体としては、すでに指定管理者制度を導入している施設が平成25年度までで一区切りになって、26年度から5年間の指定管理者を指定するに当たって、新たに導入する施設があれば同じ時期に導入することになる。

考古博物館については現時点で導入するかどうかが決まっているわけではなくて、26年度の切り替えの時期に向かってどういうスタンスで構えていたらいいか、考古博物館ではどういう対応をしたらいいかというのが議論の主旨である。

(委員)

日本でも、広い意味での民間委託というものが進められている。これはアメリカやヨーロッパの流行みたいなもので、例えばイギリスでは刑務所なども民間委託しているという例がある。一方で、国のレベルでも、一旦外へ出してはみたがやはりうまくいかないから、官に戻すという流れが起きている。

確かに、外部委託した方がスッキリするという仕事もあると思う。県立図書館などは、外に出してスッキリするような部分を出していると思うが、無料の原則があって入館料を取れないので儲かる事業ではない。県立美術館は、文学館と一緒にしているので、収益的には文学館が美術館に依存している形になっている。

考古博物館については、そういう意味でのスケールメリットもないし、埋蔵文化財センターとの関係が非常に難しい、微妙な部分があって、相当難しいのかなという感じを持っている。

(委員)

昨日も美術館と文学館で話を聞いてきたが、広報的な面では非常にうまくやっているということだった。

指定管理者制度について効果を求められているのは経費だと思うが、資料の2ページでは制度導入後に管理運営経費が増加した施設が1/4くらいある。この点についてはどうか。

(事務局)

これは平成23年度の管理運営状況調査の結果から抜き出したものだが、個別具体的な数字

については把握していない。

(委員)

制度導入に当たっては、こういう難しい話なので経費的などころが大きく注目される部分だと思う。

(委員)

いろいろな意見があると思うが、この資料は委員の皆さんは今日初めて見たものなのか。また、このあと議論する時間はあるか。

(事務局)

この資料は、前回3月の協議会の際の資料を踏まえて必要な箇所を修正したもので、流れとしては変わっていない。

スケジュールとしては、10月いっぱいくらいまでに導入するかどうかを決めておかないとならない。導入するのであれば、来年度には選定に係る経費などを予算要求しなければならなし、条例も改正しなければならない。

(委員)

考古博物館については、可能であれば直営を継続して頂きたい。経費の面で問題があるのであれば、さらなる努力をして節減に努めるということではないか。

これまで考古博物館は、質の高いサービスを提供してきて30年やってきた。130万人近い来館者をお迎えして、十分に博物館としての機能を発揮している。それに加えて、埋蔵文化財センターが併設されており、普段から調査研究などいろいろな形で協力してやってきているという現実がある。そういう中で、導入によるデメリットを考えると、やはり直営の方向で進めていくべきではないかという提言をしたいと思う。

これまでの経緯から考えると、委員の皆さんから指定管理者制度を導入した方がいいという特段のご意見がなければ、やはり直営という方針で進めて頂きたいということで、本日の会議をまとめさせて頂きたいと思うがいかがか。

(委員)

異議なし。

(委員)

あとで資料をじっくり読んで頂いて、各委員さんに考古博物館が将来どうあるべきかをもう一度よく考えて頂いて、また必要があれば緊急に皆さんの意見を聞くような会を設けるような場面があるかもしれないが、本日の協議会としては直営で進めてほしいということで報告させて頂きたい。

(事務局)

ありがとうございました。本日の協議会の意見を踏まえた中で、指定管理者制度への対応を検討していきたい。